

陸上無線通信委員会報告書案

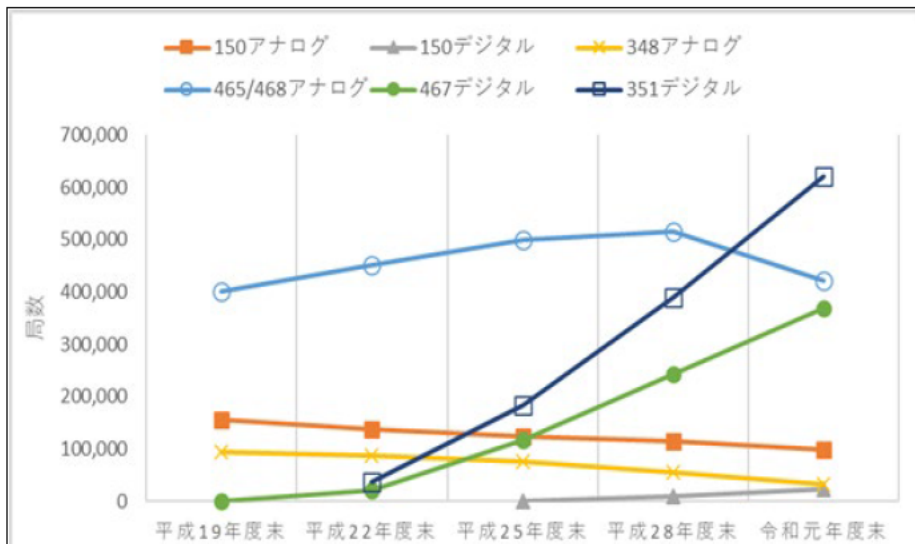
「自動的に又は遠隔操作によって動作する簡易無線の技術的条件について」(概要)

■ 検討の背景

- ✓ 簡易無線局の局数は、平成23年度末の約75.6万局が令和3年度末には約141.7万局と、この10年間でほぼ倍増
- ✓ 特に、平成20年8月に導入されたデジタル簡易無線の登録局は、全国では平成23年度の約6.6万局から令和3年度には約74.8万局と11倍以上に増加
- ✓ 音声通信だけでなくIoT分野でのデータ通信にも活用されており、さらに近年、建物内外等における不感地帯解消のニーズが増加

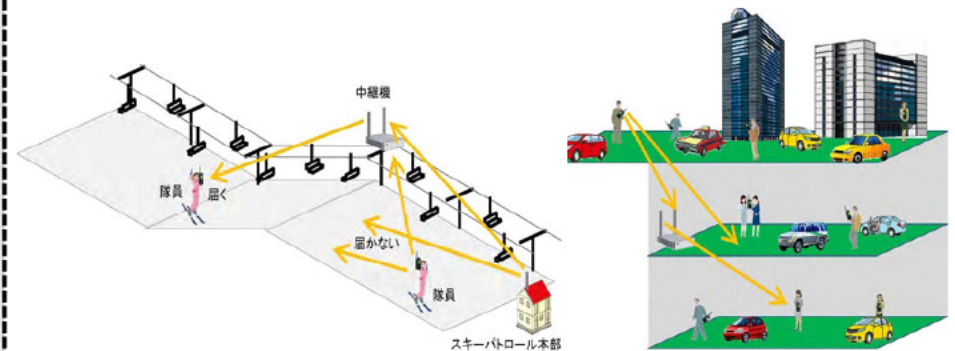
自動的に又は遠隔操作によって動作するデジタル簡易無線の高度化について、必要な技術的条件を検討

簡易無線局の推移



想定される利用シーン

- ✓ 不感地帯の解消のための無人の中継利用などのニーズが増加



地形による不感地帯の解消

地下駐車場の不感地帯の解消

陸上無線通信委員会報告書案

「自動的に又は遠隔操作によって動作する簡易無線の技術的条件について」(概要)

■ 主な技術的条件の概要

項目	デジタル簡易無線		デジタル簡易無線 (自動的に又は遠隔操作によって 動作するもの)	中継動作を行うもの
	免許	登録		
免許/登録	免許	登録	同左	免許
周波数	150/467MHz帯	350MHz帯	同左	467MHz帯
通信方式	単信方式、単向通信方式又は同報通信方式		同左	半複信方式
周波数離隔	-		-	<u>2MHz~10MHz</u> (2周波半複信)
空中線電力	5W 以下	5W 以下 (上空利用1W以下)	同左	5W 以下
呼出名称記憶装置	電波の発射後、呼出名称記憶装置に記憶した呼出名称を自動的に送信するものであること。		同左	<u>不要</u> (通信の相手方の呼出名称をそのまま送信すること。)
キャリアセンス	不要	必要	同左	不要
自動的に又は遠隔操作によって動作する場合に具備すべき機能	-		<u>障害検知・停止機能</u> (自局の障害を検知し、自動的に電波の発射を停止する機能)	同左
その他の技術基準	同一			